

環境にやさしい容器包装

容器包装の本来の目的は、商品の品質や衛生安全を保全し、手軽に安全に持ち運びできることです。ユニーはセルフサービスで商品を販売しているため、お客様が自分で商品を選び精算します。そのためほとんどの商品は容器包装に入れて販売しています。ところが使い終わった容器包装が家庭ゴミの50%（容積比）を占め、廃棄されたものを焼却処分するには大量のCO₂を排出し地球温暖化の一因になるともいわれています。ユニーではお客様とメーカーが協働で容器包装の簡素化や軽量化に取り組み3Rを実践し環境負荷低減に取り組んでいます。

<p>1 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み</p> <p>レジ袋のように、お客様と一緒に「使わなくてもよい容器包装」を削減する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ノーレジ袋キャンペーン ◆レジ袋無料配布の中止 ◆ばら売りなど、容器包装を使わない販売 ◆どうしても使用する容器包装の小型化・薄肉化 ◆トレイを使わない販売の検討 ◆贈答品などの簡易包装 ◆マイボトルやマグカップなどの利用促進 	<p>2 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み</p> <p>お客様が商品と一緒に持ち帰った容器包装を回収し、再生資源にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆リサイクルによる店頭回収 ◆再生資源として製品（トイレトペーパーなど）やベンチなどにリサイクル ◆使用済みレジ袋を再びレジ袋にリサイクルする ◆ペットボトルキャップを店頭回収し、自動車部品や換気扇部品などへのアップサイクルを推進 	<p>3 サステナブル（持続可能な）原料を使った容器包装への取り組み</p> <p>限りある化石資源（石油）を使用せず、繰り返し栽培可能な植物資源を原料にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆環境配慮商品eco!onの容器にバイオマスプラスチックを使用 ◆有料レジ袋にバイオポリエチレンを使用 ◆生鮮食品の販売に生分解性バイオマスプラスチック、ポリ乳酸製容器包装を使用
--	--	---

1 容器包装をできるだけ使わない販売への取り組み

レジ袋削減への取り組み

レジ袋の歴史は古く、1970年代にスーパーで商品の持ち帰り用に使われ始めました。薄くて丈夫、水にも強く便利なことから瞬く間に社会に浸透しました。ところが一度使えば廃棄され、自然には分解しないことから、ゴミの増加や自然破壊につながる大きな問題になり、消費者団体などによる「お買い物袋持参運動」が1980年代に始まりました。ユニーでは1989年からレジ袋削減に取り組んでいます。

2001年からはマイバッグを配布したり、2006年には「ノーレジ袋キャンペーン」を展開したり、さらに啓発活動を進めましたが効果が出ず、2007年からは「レジ袋無料配布中止（有料化）」を始めました。廃棄されたレジ袋を焼却することでCO₂が発生すること、原料である化石燃料（石油）の枯渇なども問題にされ、持続可能な社会の妨げになることから、ユニーでは2014年2月に全店の食品売り場でレジ袋無料配布の中止に踏み切りました。

レジ袋削減のための取り組み

▶ お買い物袋持参運動開始

1989年に愛知県一宮市で「レジ袋をもう一度使いましょう」という、お買い物袋持参運動を開始しました。



お買い物袋持参運動の説明を受ける従業員（1989年11月、サンテラス一宮店）

▶ マイバッグキャンペーン

2001年からは「何度も使えるレジ袋代わりのマイバッグ」をスタンプカードと交換で差し上げるマイバッグキャンペーンを始めました。



▶ ノーレジ袋キャンペーン

2006年から「レジ袋を使わないお買い物」をお客様と一緒に進めるために、ポスターや館内放送でアピールし、レジ袋の辞退率を高めることができました。



▶ レジ袋の無料配布中止

全店の食品売り場でレジ袋無料配布を中止にしました。



群馬県 アピタ高崎店

▶ レジ袋辞退率の推移とレジ袋使用量の推移について

ユニーでは2007年からレジ袋無料配布中止（有料化）を開始しました。当初はユニー全体で年間3億枚を超えるレジ袋を使用していましたが、無料配布中止店舗を拡大することによって2013年には1億枚近くまで削減しました。レジ袋辞退率も年々向上し90%近くまで向上しました。2014年に全店での無料配布中止を実現し2015年にはレジ袋は6,328万枚まで削減しました。この結果、容器包装リサイクル法の再商品化委託金額も減り環境負荷軽減と経費の削減にもつながりました。

◆ レジ袋辞退率の推移



◆レジ袋使用量の推移※1

年度	枚数(単位:千枚)	重量(単位:t)	備考
2007	310,559	1,818	レジ袋無料配布の中止
2008	309,222	1,851	96店舗で無料配布中止
2009	134,678	1,029	170店舗で無料配布中止
2010	116,749	964	約73%の店舗で無料配布中止
2011	111,632	851	四日市市・弥富市などの店舗が加わる
2012	110,743	839	約80%の店舗で無料配布中止
2013	109,528	821	滋賀県、長野県、愛知県全域で無料配布中止
2014	68,454	616	関東8県、関西2県含め全店舗で無料配布中止
2015	63,288	587	全店舗での無料配布中止を継続

※1 2008年にユースタアと合併し80店舗増える
 ※2 容器包装リサイクル法に基づき、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会へ支払った委託金額
 ※3 全店舗でのレジ袋有料化を実施したためプラスチック容器包装が大きく削減された

◆容器包装リサイクル法への対応※2

年度	委託金額(税込)
2007	2億9,729万円
2008	2億7,978万円
2009	2億2,272万円
2010	1億6,655万円
2011	1億6,154万円
2012	1億4,868万円
2013	1億5,866万円
2014	1億6,104万円
2015	1億3,557万円※3

レジ袋無料配布中止(有料化)

ユニーは、2007年6月に、横浜市のピアゴ中山店(旧ユニー中山店)で初めて有料化を開始しましたが、単独での実施だったため、自治体や消費者・同業者との連携が取れず、またお客様からのご理解がいただけず来店客が減少、売り上げも一時低迷するといった厳しいスタートでした。

店舗での啓発活動の結果、売り上げは持ち直せましたが反省することがたくさんありました。これ以降、ユニーは自治体や市民との合意のうえ、地域の近隣の同業他社とも連携し、地域全体で取り組みました。その後は大きな問題もなく地域を拡大、2014年2月20日には全店舗レジ袋無料配布中止(有料化)を実現しました。

- 1 自治体が、レジ袋削減は「廃棄物削減および地球温暖化防止」のためであることを広く市民に知らせ、主体的に取り組むこと。
- 2 地域の市民団体が支援して下さること。
- 3 地域の小売り事業者などが皆で参加すること。

自治体・市民団体・事業者の三者がそれぞれの役割を果たすために、協議会を設立し十分に話し合い、協定書を締結するよう努める。

地球環境活動に寄付

有料レジ袋を購入していただくと、ユニーは1枚につき1円を、地域の自治体の環境活動に寄付します。
 ◆2015年度実績
3,396万6,383円



群馬県より感謝状を受け取る
 けやきウォーク前橋の衣笠拓也支配人

減装(へらそう)ショッピング

家庭から排出されるごみの約60%が商品の容器包装だといわれています。容器包装には商品の品質や衛生安全を保全し、持ち運びやすいなどの機能がありますが、さらに軽量化や簡素化を図り、廃棄物の発生抑制を促進しなければなりません。そこで、中身に対して容器包装の軽い商品に「減装マーク」をつけ、消費者に紹介して購入を促す実験をNPOごみじゃぱん(神戸大学)と一緒に実施しています。エコ博では、賛同したメーカーが減装商品を消費者にアピールしました。

容器包装ゴミを減らしたPB商品

◆スタイルワンマーガリン入りバターロール



日本ハム、容器包装削減を子ども達に説明



エコ博、減装戦隊「へらすんじゃー」が子ども達とクイズ



山崎製パンの減装商品を紹介するごみじゃぱんの学生

東海三県一市グリーン購入キャンペーン

2002年より、愛知県・三重県・岐阜県の東海三県と名古屋市の小売店が共催して「環境にやさしいお買い物」を消費者に啓発する活動を行っています。容器包装が軽量なものの、容器詰め買え商品、容器包装資材が再生資源やバイオマスプラスチックなどの環境への負荷ができるだけ小さいものを優先的に購入することで、廃棄物削減やリサイクル資源の利活用、資源の保全などの環境貢献ができることを紹介し、消費者に環境について関心をもってもらい、商品選びに役立ててもらおうことが目的です。ユニーでは独自企画として、環境に配慮したオリジナル商品「ecolon」やバイオマスプラスチック製容器包装の普及啓発活動を行っています。また、県や市と協力して店内でイベントを開催し、より多くの消費者に知ってもらい、買っていただくように努めています。



キャンペーンポスター



愛知県と協働でイベント開催
 ヴェルサウォーク西尾



三重県 アビタ松阪三雲店



岐阜県 アビタ美濃加茂店



名古屋市
 ヒルスウォーク徳重ガーデンズ



紙バックで手すきハガキ作り
 ヴェルサウォーク西尾



愛知県AELネットも出展
 (環境施設のスタンブラー)

2 使った後の容器包装を廃棄物にしない取り組み

リサイクルボックスによる容器の店頭回収

ユニーでは家庭ごみの削減と再資源化を図るために、使用済み容器包装を店頭回収しています。回収した容器包装は店舗ごとに重量を計りその結果をポスターで公表し、再資源として国内循環ルートで運用しています。2015年度は総回収量が前年度比2.8%増加しました。お客様と進める「循環型社会構築」の取り組みです。



◆リサイクルボックスでの店頭回収実績

	アルミ缶	牛乳パック	発泡トレイ	ペットボトル	店舗総合計
回収店舗数	208店舗	223店舗	223店舗	205店舗	—
回収店舗	93.3%	100.0%	100.0%	91.9%	—
全社合計(45期)(kg)	647,981	530,667	274,643	2,200,183	3,653,474
全社合計(44期)(kg)	605,198	542,743	280,492	2,126,669	3,555,103
前年比	107.1%	97.8%	97.9%	103.5%	102.8%

回収した容器はリサイクルセンターに集約

リサイクル回収の輸送にかかるエネルギーやCO₂の排出などが問題にされることがあります。ユニーでは店舗から物流センター内にあるリサイクルセンターに搬送するときに商品配送便の帰り便を使うことにより、無駄な燃料やCO₂の排出削減に努めています(現在中京地区・山静地区・北陸地区の物流センターにリサイクルセンターを設置。その他の地区は店舗から直接リサイクル工場に搬送しています)。リサイクルセンターでは、各店舗から回収した使用済み容器包装を計量し効率的に搬送しやすいように圧縮し、それぞれのリサイクル工場に搬出します。



弥富物流センター内のリサイクルセンター

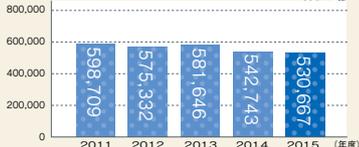
▶容器包装リサイクルの仕組み



使用済み容器包装のリサイクルループ



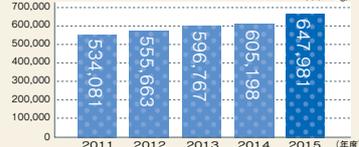
リサイクル量の推移 (単位: kg)



参加店舗数と参加率の推移

年度	参加店舗	食品取扱店舗	参加率 (%)	回収量 (kg)
2011	217	217	100.0	598,709
2012	217	217	100.0	575,332
2013	220	220	100.0	581,646
2014	223	223	100.0	542,743
2015	223	223	100.0	530,667

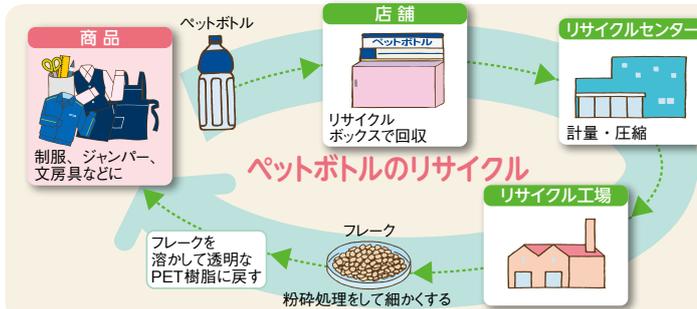
リサイクル量の推移 (単位: kg)



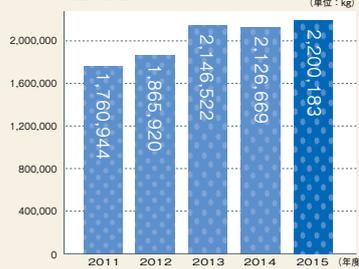
参加店舗数と参加率の推移

年度	参加店舗	食品取扱店舗	参加率 (%)	回収量 (kg)
2011	173	217	79.7	534,081
2012	177	217	81.6	555,663
2013	193	220	87.7	596,767
2014	196	223	87.9	605,198
2015	208	223	93.3	647,981

ペットボトルのリサイクル



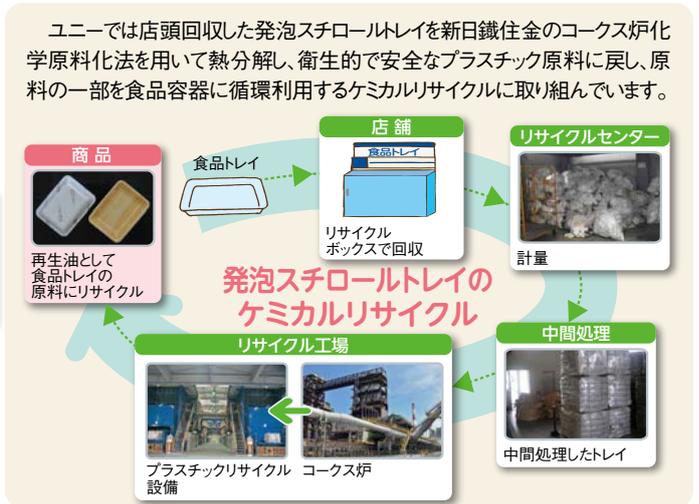
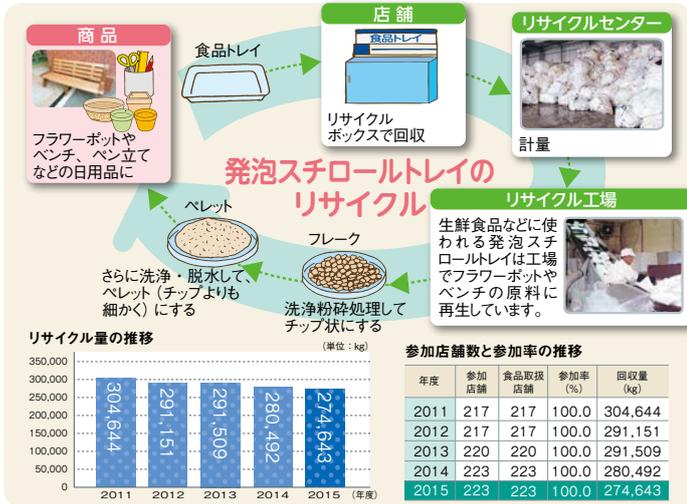
リサイクル量の推移 (単位: kg)



参加店舗数と参加率の推移

年度	参加店舗	食品取扱店舗	参加率 (%)	回収量 (kg)
2011	178	217	82.0	1,760,944
2012	184	217	84.8	1,865,920
2013	193	220	87.7	2,146,522
2014	205	223	91.9	2,126,669
2015	205	223	91.9	2,200,183





ボトルキャップ運動

ユニーでは回収したペットボトルキャップを、再生プラスチックの専門企業いその株式会社に売却し、NPO「世界の子どもにワクチンを日本委員会」に寄付しています。また、再生プラスチックは自動車部品の原料としてリサイクルしています。ユニーはこうした使用済み容器包装の「アップサイクル」を目指しています。



3 サステナブル(持続可能な)原料を使った容器包装への取り組み

バイオマスプラスチック製容器包装

容器包装はプラスチック製のものが多く、ほとんど石油製品です。石油など化石燃料は限りある資源であり、使い捨ての容器包装に枯渇が心配される貴重な資源を使ってよいのでしょうか。また、石油を産出する時、焼却処分する時にはCO₂を排出し、地球温暖化の一因とされています。そこで、ユニーは2006年から植物由来のバイオマスプラスチック製容器包装を使用しています。



バイオスマーク

動植物を原料としたプラスチック使用後は水と二酸化炭素に分解され、自然に戻ります。

▶ バイオマスプラスチック(バイオポリエチレン)製容器包装

ユニーの有料レジ袋は植物由来のバイオポリエチレンを25%含有品です。サトウキビの廃材から作られたバイオポリエチレンは石油製品に比べ、17%CO₂を削減しています。



▶ バイオマスプラスチック(ポリ乳酸)製容器包装

ユニーではサステナブル(持続可能)な資源であり、CO₂を増やさないバイオマスプラスチック(ポリ乳酸)を青果売場と鶏卵パックに使用しています。使用済みの容器は回収しリサイクルしています。

